

Oracle® Database

Client クイック・インストール・ガイド

10g リリース 1 (10.1.0.2.0) for Microsoft Windows (64-bit)

部品番号 : B13940-01

原典情報 : B13802-01 Oracle Database Client Quick Installation Guide, 10g Release 1 (10.1.0.2.0) for 64-Bit Windows

2004 年 5 月

このマニュアルでは、Oracle Database Client を Windows システムに短時間でインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. [このマニュアルの概要](#)
2. [ソフトウェア要件](#)
3. [ハードウェア要件](#)
4. [管理者権限によるシステムへのログオン](#)
5. [Oracle Database Client ソフトウェアのインストール](#)
6. [インストール後の作業](#)

1 このマニュアルの概要

注意： このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Database Client をインストールする方法を説明します。ご使用のシステムに Oracle ソフトウェアがすでに存在している場合は、『Oracle Database Client インストール・ガイド』で、インストール手順の詳細を確認してください。

このマニュアルでは、新しい Oracle ホーム・ディレクトリに、Oracle Database Client をデフォルトでインストールする方法を説明します。次のインストール・タイプの実行方法を説明します。

- **管理者：**アプリケーションでローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。また、Oracle データベースを管理するためのツールが提供されます。
- **ランタイム：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。
- **Instant Client：**Instant Client 機能を使用する Oracle Call Interface アプリケーションに必要な共有ライブラリのみをインストールできます。このインストール・タイプは、他の Oracle Database Client のインストール・タイプに比べ、必要なディスク領域がはるかに少なくなります。

関連資料： Instant Client 機能の詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

ORACLE®

Copyright © 2004, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle® Database は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

追加インストール情報の入手先

Oracle Database Client のインストールの詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド』を参照してください。

2 ソフトウェア要件

表 1 は、Oracle Database Client のソフトウェア要件の一覧です。

表 1 Oracle Database Client のソフトウェア要件

要件	説明
システム・アーキテクチャ	Itanium 2 64 ビット 注意： Oracle Database for Windows には、32 ビットと 64 ビットの両バージョンが用意されています。現在、64 ビット・バージョンのデータベースは、64 ビット・バージョンのオペレーティング・システムで実行する必要があります。32 ビット・バージョンのデータベースは、32 ビット・バージョンのオペレーティング・システムで実行する必要があります。
オペレーティング・システム	Oracle Database Client for Windows (64 ビット) は、次のオペレーティング・システムでサポートされています。 ■ Windows XP 64-bit Edition Version 2003 ■ Windows Server 2003 Datacenter Edition for 64-bit Itanium 2 Systems ■ Windows Server 2003 Enterprise Edition for 64-bit Itanium 2 Systems Windows Multilingual User Interface Pack は、Windows XP 64-bit Edition および Windows Server 2003 でサポートされています。
コンパイラ	Object Oriented COBOL (OOCOBOL) の仕様はサポートされていません。 次のコンポーネントは、Microsoft Platform SDK コンパイラおよび Intel Electron C 7.1 コンパイラでサポートされています。 ■ Oracle C++ Call Interface ■ Oracle Call Interface ■ 外部コールアウト ■ PL/SQL のネイティブ・コンパイル ■ XDK
ネットワーク・プロトコル	Oracle Net Foundation レイヤーでは、Oracle protocol support を使用して、業界標準の次のネットワーク・プロトコルと通信します。 ■ TCP/IP ■ SSL を使用する TCP/IP ■ Named Pipes

3 ハードウェア要件

Oracle Database Client には、次のハードウェア・コンポーネントが必要です。

- RAM: 1GB 以上
- 仮想メモリー: 512MB
- ディスク領域: 表 2 を参照
- 一時ディスク領域: 100MB
- ビデオ・アダプタ: 256 色
- プロセッサ: 各インストール・タイプに Itanium 2 以上

3.1 ハード・ディスク領域要件

この項では、NT File System (NTFS) のファイル・システムに対するシステム要件を示します。FAT32 の場合、必要な領域は若干大きくなります。Oracle コンポーネントは、NTFS にインストールすることをお勧めします。

この項で示す NTFS のシステム要件は、Oracle Universal Installer の「サマリー」画面に表示されるハード・ディスクの値より正確です。「サマリー」画面の値には、データベースの作成に必要な領域や、ハード・ドライブで展開される圧縮ファイルのサイズが含まれていません。

Oracle Database Client コンポーネントのハード・ディスク要件には、Java Runtime Environment (JRE) と Oracle Universal Installer を、オペレーティング・システムがインストールされているパーティションにインストールするために必要な領域が含まれています。十分な領域が検出されないと、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

表 2 に、NTFS の領域要件を示します。

表 2 NTFS のハード・ディスク領域要件

インストール・タイプ	システム・ドライブ	Oracle ホーム
管理者	90MB	790MB
ランタイム	50MB	150MB
Instant Client	70MB	88MB

関連資料: 『Oracle Database プラットフォーム・ガイド』の「NTFS ファイル・システムと Windows レジストリの権限」

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理 RAM サイズを確認します。たとえば、Windows XP を使用するコンピュータの場合、コントロールパネルの「システム」を開き、「全般」タブを選択します。システムにインストールされている物理 RAM のサイズが必要サイズより小さい場合は、先に進む前にメモリーを増設する必要があります。
2. 構成されている仮想メモリーのサイズ（ページング・ファイル・サイズともいう）を確認します。たとえば、Windows XP を使用するコンピュータの場合、コントロールパネルの「システム」を開き、「詳細設定」タブを選択し、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。「詳細設定」タブを選択し、「仮想メモリ」セクションの「変更」をクリックします。

追加のスワップ領域の構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. システム上の空きディスク領域の量を調べます。たとえば、Windows XP を使用するコンピュータの場合、「**マイ コンピュータ**」を開き、Oracle ソフトウェアをインストールするドライブを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
4. temp ディレクトリ内の使用可能なディスク領域の量を確認します。これは、空きディスク領域の合計量から、インストールする Oracle ソフトウェアに必要な領域量を引いた量に相当します。

temp ディレクトリで使用可能なディスク領域が 140MB 未満の場合は、まず不要なファイルをすべて削除します。それでも temp ディスク領域が 140MB 未満である場合は、TEMP または TMP 環境変数が別のハード・ドライブを指すように設定します。たとえば Windows XP を使用しているコンピュータの場合、コントロール パネルから「**システム**」を開いて「**詳細設定**」タブを選択し、「**環境変数**」をクリックします。

4 管理者権限によるシステムへのログオン

Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータに、Administrators グループのメンバーとしてログオンします。プライマリ・ドメイン・コントローラ（PDC）またはバックアップ・ドメイン・コントローラ（BDC）にインストールする場合は、Domain Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

5 Oracle Database Client ソフトウェアのインストール

次の項では、Oracle ソフトウェアのインストール方法を説明します。

- [製品固有のインストールのガイドライン](#)
- [Oracle Universal Installer の実行](#)

5.1 製品固有のインストールのガイドライン

Oracle Universal Installer を起動する前に、次のガイドラインを確認してください。

- コンポーネントをインストールする際に、インストールするリリースより前の Oracle 製品から Oracle Universal Installer を使用しないでください。
- Oracle ソフトウェアの再インストール。

Oracle Database Client がすでにインストールされている Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle ソフトウェアを再インストールする場合は、開始する前に、インストール済のコンポーネントもすべて再インストールする必要があります。

5.2 Oracle Universal Installer の実行

注意： サポートしているすべての Windows プラットフォームに対する Oracle Database Client のインストールには、同じインストール・メディアを使用してください。

関連資料： インストール・メディアを使用しない Oracle Database Client のインストール手順の詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド』を参照してください。

次のように Oracle Universal Installer を起動し、ソフトウェアをインストールしてください。

1. 「Oracle Database Client 10g リリース 1 (10.1.0.2.0)」というラベルの CD を挿入します。

Autorun 画面が自動的に表示されます。Autorun 画面が表示されない場合は、次のようにします。

- a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 次のように入力します。

```
DRIVE_LETTER:¥autorun¥autorun.exe
```

Autorun 画面が表示されます。

2. Autorun 画面で**製品のインストール/削除**を選択します。

「ようこそ」画面が表示されます。表 3 は、各画面で推奨される操作を示しています。

3. 次のガイドラインに従ってインストールを完了します。

- Oracle Universal Installer の各画面に表示される指示に従います。追加情報が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックします。
- Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) のソフトウェアを、Oracle9i 以前のソフトウェアが存在する既存の Oracle ホームにインストールしないでください。
- オラクル社カスタマ・サポート・センターで提供されているパッチを使用する場合を除き、Java Runtime Environment (JRE) を変更しないでください。Oracle Universal Installer により、オラクル社が提供するバージョンの JRE が自動的にインストールされます。Oracle Universal Installer およびいくつかの Oracle Assistant の実行には、このバージョンが必要です。
- Oracle Net Configuration Assistant を対話モードで実行するインストール・タイプを選択した場合、データベースおよびネットワークの構成について詳細な情報を指定する必要があります。対話モードでの Oracle Net Configuration Assistant の使用に不明な点がある場合は、任意の画面で「ヘルプ」をクリックしてください。

注意： デフォルトのインストールを選択した場合、Oracle Net Configuration Assistant は対話モードで実行されません。

4. すべての構成ツールを終了後、「終了」続いて「はい」をクリックして、Oracle Universal Installer を終了します。
5. インストール・プロセス中に作成された一時ファイルを削除する場合は、¥temp¥OraInstalldate_time ディレクトリを削除します。OraInstalldate_time ディレクトリには、約 45MB のファイルが保持されます。
また、OraInstalldate_time ディレクトリは、コンピュータを再起動しても削除されます。

表 3 Oracle Universal Installer の画面

画面	推奨するアクション
ようこそ	「次へ」をクリックします。
ファイルの場所の指定	「インストール先」セクションでデフォルト値を確定するか、Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホームの名前とディレクトリ・パスを入力します。 「次へ」をクリックします。

表 3 Oracle Universal Installer の画面（続き）

画面	推奨するアクション
インストール・タイプの選択	「InstantClient」、「管理者」、「ランタイム」または「カスタム」を選択します。 「次へ」をクリックします。
サマリー	表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。
インストール	「インストール」画面では、製品のインストール中、ステータス情報が表示されます。
Configuration Assistant	「Configuration Assistant」画面には、ソフトウェアを構成する Configuration Assistant のステータス情報が表示されます。
Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ	ネーミング・メソッド構成を選択できます。また、Oracle Net Configuration Assistant により一般的な構成作業を実行することも可能です。選択する場合は「次へ」をクリックします。一般的な構成作業を実行する場合は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしてから「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネーミング・メソッドの構成 - メソッドの選択	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。推奨されるネーミング・メソッドであるローカル・ネーミングが選択されています。ただし、これを削除し、他のネーミング・メソッドを追加するか、ネーミング・メソッドをクリックして次に矢印キーをクリックして選択したネーミング・メソッドの順序を変更することができます。ネーミング・メソッドの選択を終了後、「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - サービス名	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。データベースのサービス名、またはアクセスするその他のサービスを入力し、「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - プロトコルの選択	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。アクセスするデータベースで使用するプロトコルを選択し、「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - <使用するプロトコル>	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。表示される内容は、前の画面で選択したプロトコルによって異なります。TCP または TCPS を選択した場合、この画面では、ホスト名およびポート番号の入力を求められます。IPC を選択した場合、IPC キー値の入力を求められます。NMP を選択した場合、コンピュータ名およびパイプ名の入力を求められます。必要な情報を入力して、「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - テスト	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。データベースへの接続をテストするかどうかを選択する 1 組のラジオ・ボタンが表示されます。選択を行い、「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - 接続	この画面は、前の画面で接続のテストを選択した場合にのみ表示されます。接続に成功しなかった場合、この画面では、「戻る」をクリックして指定した接続情報を確認するか、「ログインの変更」をクリックしてユーザー名、パスワード、あるいはその両方を変更するよう指示されます。「次へ」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - ネット・サービス名	この画面は、標準構成を実行するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。このネット・サービス名に対する名前を入力できます。デフォルトは、前に入力したサービス名です。「次へ」をクリックします。

表 3 Oracle Universal Installer の画面（続き）

画面	推奨するアクション
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成 - 別のネット・サービス名	この画面は、 標準構成を実行 するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。このネット・サービス名に対して別の名前を入力するかどうかたずねられます。「 次へ 」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネット・サービス名の構成が終了しました	この画面は、 標準構成を実行 するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。ネット・サービス名の構成が終了したことが示されます。「 次へ 」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: ネーミング・メソッドの構成が終了しました	この画面は、 標準構成を実行 するチェック・ボックスをクリックしなかった場合にのみ表示されます。ネーミング・メソッドの構成が終了したことが示されます。「 次へ 」をクリックします。
Oracle Net Configuration Assistant: 完了	「 終了 」をクリックします。
インストールの終了	インストールの終了画面には、インストールが正常に終了したことが示されます。 「 終了 」続いて「 はい 」をクリックします。

6 インストール後の作業

Oracle Database Client のインストールが完了した後、『Oracle Database Client インストール・ガイド』の第 4 章「インストール後のタスク」で、インストール後の必須およびオプションの手順を参照してください。

